

6 章南中学校カッター訓練事故発生の状況

事故当日の様子を三ケ日青年の家所員、豊橋市立章南中学校、地元マリーナ、その他関係者から可能な限りの聴き取りを行い、事故発生までの経緯や経過について時系列でまとめた。

なお、下記の時刻はおおよその時刻のため、実際の時刻とは多少前後している場合がある。

日 時	状 況 等
6月17日(木) 9時30分頃	[豊橋市立章南中学校入所] 6月17日から18日の2泊3日間、集団宿泊研修を三ケ日青年の家で実施するため、生徒94名引率教員6名(校長、教員5名)にて入所し、入所式、オリエンテーションを終え、三ケ日青年の家での活動を開始した。
10時00分頃	[第1日目のプログラムの実施] 生徒を2グループに分け、「グランドゴルフ」「カニ釣り」のプログラムを実施した。
13時30分頃	生徒全員による「ウォークラリー」を実施した。
19時30分頃	[所員及び引率者による打合せ] 第一日目を終了した時点で、生徒の健康状態や宿泊者数の再確認を行い、翌日(6月18日)の活動内容について約20分間の打合せを行った。 この中で、翌日実施する「カッター訓練」についても触れ、所員から雨でも実施するが、雷が鳴った場合には即中止することを伝えた。
6月18日(金) 8時30分頃	[所員朝の打合せ] 各団体の活動予定と担当する所員の確認。
9時00分頃	[第2日目のプログラムの開始] 章南中学校の引率者の指導により、自主プログラム「レクリエーション」を体育館にて実施した。 同時刻にK小学校によるローボート(3人乗り手漕ぎボート)の活動がハーバー内及びハーバー周辺で計画どおりに実施された。
10時00分頃	[10時現在の湖の状況] 所長及び所員1名(後のカッター訓練キャプテン)が6月20日(日)に行われる青年の家主催事業の実施場所を確認するため、浜名湖上を水上バイクで移動していた。後に行われたカッター訓練のコースとほぼ同じ方面(東)を航行しており、当時の湖上の様子は、波、風ともに穏やかな状態であった。
11時30分頃	[カッター訓練の実施に関しての確認] 雨が強まってきたことから章南中学校の引率者が青年の家事務室を訪れ、午後のカッター訓練を実施するか否かについて、問合せを行った。 当時、事務室にいた所員(後にB艇へ乗船)は、「この程度の雨なら大丈夫である」と答え、別の所員がインターネットで気象情報を確認し、注意報も発表されていないことも伝えた。 この回答を受けた章南中学校の教員は、予定どおり実施すると校長及びその他教員に伝え、章南中学校へもその旨を伝えた。

日 時	状 況 等
6月18日(金) 12時02分頃	[注意報の発表] 所員が大雨、雷、強風、波浪、洪水の注意報発表をインターネットで確認し、事務室のホワイトボードに記入するとともに、当時、青年の家事務室にいた所長及び所員に口頭でこれを伝えた。 しかし、章南中学校の校長及び教員には注意報の発表を伝えなかった。 この時点で、三ケ日青年の家での天候は、雨(時折強い雨)、東南東の風平均風速3m程度であり、気象予報でも、12～18時の間の風速予報は「5m/s未満」であった。
12時45分頃	[章南中学校の引率者増加] カッター訓練の実施に際し、章南中学校から新たに教員2名が三ケ日青年の家に到着した。 [カッター訓練の実施方法の決定] カッター訓練の準備を開始するため、キャプテンを務める所員(以下「キャプテン」)が青年の家事務室を出る際、所長に通常よりコースを短縮し、早めに帰港するプランで実施することを告げ、所長はこれを了承した。
13時00分頃	[カッター訓練の準備] 時折強い雨が降る中、カッター訓練の準備を行った。
13時15分頃	[生徒が艇庫に集合] 章南中学校 生徒92名、見学生徒2名、教員8名が艇庫に集合し、訓練の開始を待った。
13時35分頃	[カッター訓練開始] キャプテンが章南中学校教員に対し、艇庫で指導を開始した。 吹流しを示し、「東風であるため、東に向かって進みます。」と伝え、モヤが発生していたので「モヤがかかった状態なので、船と船の間隔を狭めて進みます。」と伝えた。また、自主艇の教員に対し、無線機の操作方法を説明し、無線交信練習を1回実施した。
13時40分頃	[生徒への始動開始] キャプテンが生徒に対し、艇庫で指導を開始した。 カッター訓練全体の説明や目的、ライフジャケットの着用と点検(ファスナー及び縛り紐が確実にしまっているか)、落水した際の姿勢、整列や生徒一人一人の番号確認を行った。
14時00分頃	[カッターボートへの乗船、漕ぎ方等の指導] ハーバーに移動し、乗船方法の説明、座席位置の確認、櫂(かい)の準備及び操作、櫂の操作に伴う注意点の説明を行い、生徒をカッターボートに乗船させた。西野花菜さんはC艇最後列右内側に乗船した。 [漕ぎ方等の練習] P29 C艇乗船状況図 参照 かけ声、漕ぎ方の実技、全艇が漕ぐ練習をハーバー内で約30分実施した。
14時35分頃	[ハーバーを出港] 〔A艇9m〕生徒27名・引率者1名・所員1名、〔B艇9m〕生徒29名・引率者1名・所員1名、〔C艇7m〕生徒18名・引率者2名、〔D艇7m〕生徒18名・引率者2名が乗船し、ハーバーを出港した。 当時、目視で風速3～4m/s程度、東風であるため東に進む「浜名湖橋コース」の進路をとった。白波の発生もなかった。雨は、断続的に強く降る状態であった。

日 時	状 況 等
6月18日(金) 14時55分頃	[天候の急変] 三ケ日青年の家から東に約1.5km付近(ホテルグリーンプラザ浜名湖沖合い約500m付近)で、風向きが東から南向きへ変化したことをキャプテンが気付き、全艇に船首を風上(南)に向けるよう無線で指示した。同時に、この先風が強まると予想し、ハーバーへ帰港することを決断した。 A艇、B艇は、キャプテンの指示に従い、風上に船首を向けたが、C艇、D艇は風上に船首を向けていなかったため、キャプテンがC艇、D艇に対して繰り返し指示を行った。D艇は、少し遅れて風上に船首を向けることができた。 [船酔いによる漕艇不能のカッターボートの発生] この時、C艇では船酔いの生徒が発生し、漕艇が十分できる状態ではなかった。このため、C艇は漕艇不能のまま風により北へ流され始めた。
15時05分頃	[レスキュー艇(23フィートモーターボート)の要請] C艇引率者はキャプテンに対し、船酔いの生徒が発生しており、漕艇が困難であることを無線で告げるとともに、レスキュー艇を要請した。 キャプテンは、三ケ日青年の家に対し、レスキュー艇の出動を要請した。 この時の風は、南西に変化し強さが増し、湖面も荒れ始めていた。 [レスキュー艇の出動] ハーバー待機の所員はC艇引率者とキャプテンとの無線交信を聞いていた。キャプテンからのレスキュー艇の要請を受け、所長と所員1名がレスキュー艇に乗船し、C艇へ向け出動した。
15時10分頃	[レスキュー艇の到着、曳航準備] 所長が操縦するレスキュー艇がC艇付近に到着した。 所長はC艇の様子を目視で確認したところ自力でハーバーに帰港することが困難であると判断し、ハーバーまで曳航することを決断した。 既に湖面は白い波頭が立つなど荒れ始めており、船同士の接近は困難な状態であったが、レスキュー艇の船尾ロープ約10mとカッターボートの船首ロープ約10mとを結ぶことができ、曳航の準備を整えた。
15時15分頃	[曳航開始] 風上(南西)に向け曳航を開始した。風向きの状態から直接ハーバーに向かう最短コースは避け、安全を考え遠回りしてハーバーへ向かう方法を選択した。所長がレスキュー艇を操縦し、所員がC艇の監視を行った。 なお、C艇の舵取りは曳航前と同じ引率者が行っていた。 天候は更に悪化し、風雨がかなり強くなっていた。
15時20分頃 ～30分頃	[C艇転覆] 曳航を開始して約5分後、C艇は左舷の側から浸水し、そのまま左舷を下にして転覆した。 乗船者全員(生徒18名教員2名)が落水し、そのうち10名程度の生徒と教員1名が転覆して逆さまになったC艇内部に閉じ込められた。 C艇の内部は、薄暗く生徒の数を正確に把握することは困難であった。 船外には8名程度の生徒と1名の教員が投げ出されていた。湖面では、波が大きく上下しており、水面から生徒数を確認することができない状態であった。

日 時	状 況 等
	[C艇内部からの脱出] C艇内部に閉じ込められた6名程度の生徒と教員1名については、教員の指導のもと潜って船外に脱出した。この時点で、C艇内部には複数名が取り残されていたと思われる。 C艇の周囲では何名かの生徒はC艇につかまり、逆さまになったC艇の上(船底部分)へ登り始めている生徒もいた。なお、C艇につかまれなかった生徒と教員は湖面に浮遊しており、風により流され始めていた。 [レスキュー艇の対応及び119番要請] 転覆直後にキャプテンが、C艇の転覆を三ケ日青年の家に無線で連絡した。 レスキュー艇からも三ケ日青年の家に、119番通報(水難救助隊)の要請をするよう連絡した。 レスキュー艇は、C艇から離れ浮遊する生徒8名と教員2名を引き上げた後、レスキュー艇に乗船していた所長が湖に飛び込みC艇に向かい、残された生徒と行動を共にして、援護することとした。 [C艇内部に閉じ込められた生徒の救助] 所長は、C艇に登った生徒に対し、再び湖面に落ちないように船をまたぐよう指示した。また、C艇に乗船していた生徒から、「まだ船内に閉じ込められている者がいる」と告げられた所長は、潜って船内を探索した。薄暗い船内で3名の生徒を目視で確認、1名ずつ船外に救出した。3名を救出した時点で所長の体力は限界となった。所長は、15時45分頃、友達の姿を見失ったと思われる生徒がその友達の名前(具体名は記憶にない)を呼んでいたのを聞いた。その後、所長もC艇に登り、救助を待った。 (C艇の上の状況は、生徒9名と所長1名の計10名)
15時31分頃	[119番通報(水難救助隊)の要請] ハーバーで待機していた所員がレスキュー艇からの119番通報の要請を受け、事務室へ急行し119番(水難救助隊)の要請を行った。 消防署の水難救助隊、救急隊、消火隊が出動した。 A艇、B艇、D艇は錨泊(湖上停泊)を行っていた。
15時40分頃	消防署の救急隊がホテルグリーンプラザ浜名湖付近に到着した。
15時48分頃	[レスキュー艇による生徒及び教員の救助完了] レスキュー艇は、湖面に浮遊する生徒8名と教員2名を救助したところで、乗船者が定員となり、所員の操縦によりハーバーへ向かった。 この時、浜松特別地域気象観測所では、南西の風平均風速6.4m/s最大瞬間風速12.9m/sが観測されていた。
16時00分頃	レスキュー艇がハーバーに到着、乗船者を揚陸させた。既に水難救助隊を要請しており、二次災害の防止や救助の邪魔にならないよう、その後レスキュー艇がC艇へ向かうことはなかった。 揚陸した生徒8名と教員2名は、既に到着していた消防署の救急隊員による体調チェックを受けたが、けがや体調不良者はなかった。
16時02分頃	水難救助隊が陸路を利用し、ホテルグリーンプラザ浜名湖付近に到着した。
16時08分頃	[県警の救助艇、地元マリーナ船の救助活動参加]
～10分頃	県警の救助艇、県警からの救助要請を受けた地元マリーナの船がC艇付近に到着し、救助を試みるが、波が高く、風も強いいためC艇への接近が困難な状態であった。

日 時	状 況 等
16 時 11 分頃	[三ケ日青年の家の利用者名簿の提出] 所員が消防署隊員に、章南中学校分の「利用者名簿（宿泊者名簿）」を提出した。以前から青年の家では、乗船名簿の提出を求めているが、当時も乗船名簿を提出させていなかった。 この後、警察にも同じ「利用者名簿」を提出した。
16 時 15 分頃	[C艇上の生徒4名の救出] 水難救助隊のゴムボートがC艇に到着、C艇上の生徒4名が救出された。 この時、所長は水難救助隊員に「いない子(行方不明者)がいるかも知れない」と告げた。(C艇上では生徒5名と所長1名が引続き救出を待った。)
16 時 38 分頃	[行方不明者の情報] 現場では、行方不明者が1名いるとの情報が流れ始めた。
16 時 47 分頃	[錨泊(湖上停泊)のB艇救出] B艇が地元マリーナの船により曳航され救出された。
16 時 53 分頃	[乗船名簿] 消防隊員が章南中学校引率者から乗船名簿を入手した。 水難救助隊の水上バイクがホテルグリーンプラザ浜名湖付近に到着した。
17 時 00 分頃	[錨泊(湖上停泊)のD艇救出] D艇が県警の船により曳航され救出された。
17 時 05 分頃	[C艇上の生徒5名と所長の救出] B艇の救出を完了させた地元マリーナの船がC艇に近づき、C艇上で救助を待っていた生徒5名と所長を救出した。生徒をホテルグリーンプラザ浜名湖付近に揚陸させた後、所長は、再び地元マリーナの船でC艇に近づき、C艇のそばにいた水難救助隊員に艇の下に生徒がいるかもしれないと告げ、捜索を依頼した。 同時刻に、水難救助隊の水上バイクが捜索を開始していた。
	[体調不良の生徒発生及び対応] ホテルグリーンプラザ浜名湖に避難中の生徒4名が、吐き気、悪寒などにより、救急車で聖隷三方原病院へ搬送された。
17 時 16 分頃	[錨泊(湖上停泊)のA艇救出] A艇が県警の船により曳航され救出された。
17 時 25 分頃	[行方不明者の情報] 現場では、行方不明者が「西野花菜さん」とあるとの情報が流れ始めた。
17 時 26 分頃	[体調不良の生徒発生及び対応] ホテルグリーンプラザ浜名湖に避難中の生徒3名が、吐き気、悪寒などにより、救急車で聖隷三方原病院へ搬送された。
17 時 51 分頃	[行方不明者発見] 水難救助隊が、行方不明者の「西野花菜さん」をC艇内部で発見した。 (心肺停止状態)
18 時 34 分頃	[西野花菜さん病院へ到着] 「西野花菜さん」が聖隷三方原病院に到着した。
18 時 47 分頃	[西野花菜さん死亡確認] 「西野花菜さん」の死亡を確認した。(死因「水死」)※6/19 静岡県警発表
20 時 40 分頃	[章南中学校退所] 章南中学校の生徒たちが学校に向け、三ケ日青年の家を出発した。